

庄内農家の友

Vol.980 / R5.11.1

2023

11

November

全農
もっと近くに。

URL <https://www.zennoh-yamagata.or.jp/>
E-mail: sysmail@yt.zennoh.or.jp



表紙写真コンクール入選 鳥海山麓の柿畑 五十嵐 貞子さん (鶴岡市福生)

Contents

- 稲作 P2-3 「スマートつや姫」知ろう・試そう・使ってみよう
- 園芸 P4-5 さくらんぼ新品種「やまがた紅王」～本格デビューまでの取組とブランド化に向けて～
- 園芸 P6-7 山形県産枝豆の販売状況等について

JA全農山形

発行所 / 全国農業協同組合連合会 山形県本部 (JA全農山形)
〒990-0042 山形県山形市七日町三丁目1番16号 TEL023-634-8133
発行人 / 長谷川 直秀
印刷所 / 庄内農村工業農業協同組合連合会

第57回 庄内フラワーショー

庄内花き生産組織連絡協議会は9月30日(土)～10月1日(日)、酒田駅前ミライニにて「第57回庄内フラワーショー」を開催しました。

この催しは、庄内地区で生産している花を広く地域の方々にPRして消費拡大を推進することと、会員の栽培技術の向上をはかることを目的としています。

庄内地区JAから、トルコギキョウ、ケイトウ、ダリア、キク、ユリ、クルクマなど計66点が出展されました。30日は、普段花を飾らない人にも自宅で気軽に花を楽しんでもらいたい、という思いから30cm程度の花を来場者へプレゼントし、庄内産花きの魅力を伝えながら展示された様々な花をお楽しみいただきました。また、同日に開催した花き審査会において以下のとおり受賞されました。



庄内花き連金賞

佐藤 浩由さん(JA庄内みどり)
ケイトウ/オレンジクイーン



庄内花き連銀賞

佐藤 正志さん(JAそでうら)
カラー/カントール



庄内花き連銅賞

佐藤 富治也さん(JAそでうら)
ダリア/ルージュマジック



庄内花き連銅賞

高橋 武さん(JAそでうら)
OHユリ/シベリア



特別賞

高橋 智子さん(JA庄内たがわ)
トルコギキョウ/エレガンスシャンパン

また、来場者がお気に入りの花きに投票し、人気投票1位を決める「特別賞」には、高橋智子さん (JA庄内たがわ) のトルコギキョウ/エレガンスシャンパンが選ばれました。

10月1日(日)には展示された花きの販売を行い、多くの方へ庄内産の花きをお届けしました。ご来場いただきました皆さま、大変ありがとうございました！

県外に住むご家族・ご友人に
庄内の旬の食を贈ろう！

くしびきバターサンド

(ドライフルーツを使った米粉(つや姫)のバターサンド)

庄内柿など8種の詰め合わせを予定

30名様にプレゼント



山形県庄内総合支庁では、県外に住むご家族・ご友人に庄内の旬の食を贈るキャンペーンを実施しています。

キャンペーン期間中に、県外のご家族・ご友人に旬の食(11月：庄内柿)を「贈った方」と、「贈られた方のうち情報発信をした方」の中から抽選で30名様に景品をプレゼントします。

「食の都庄内」ホームページとフェイスブック、チラシでお知らせしています。

第3弾 庄内柿

応募期間

11/1 ▶ 11/30



応募対象

①県内にお住まいの方
県外にお住まいのご家族・ご友人に庄内柿を贈った方

応募方法

「食の都庄内」イベントページの申込みフォームからお申込みください



お問合せ

「庄内まるごと届け隊」推進協議会
(事務局：山形県庄内総合支庁農業振興課内)

☎ 0235-66-5519

✉ yshonainoshin@pref.yamagata.jp

②県外にお住まいの方

「#庄内の旬の食を贈ろう」をつけて贈られた庄内柿の写真をInstagramに投稿された方

当選された方にはダイレクトメッセージをお送りしますので「食の都庄内」Instagramのフォローをお願いします。

「スマートつや姫」 知ろう・試そう・使ってみよう

山形県庄内総合支庁 産業経済部農業技術普及課 水戸部 昌 樹

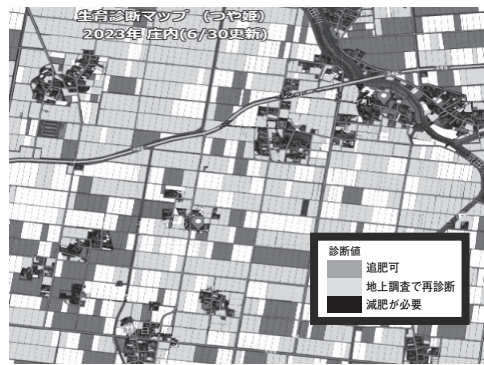


図3. 穂肥診断マップ

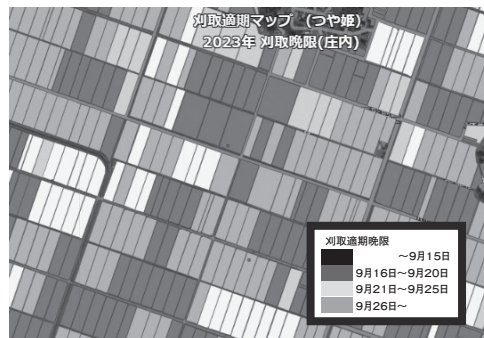


図4. 刈取適期マップ

④食味収量点検マップ
当年産米の食味と収量の振り返りに活用できます。

⑤
たたとえば、今年の平均収量が低かった場合、あるいは玄米タンパク質含有率が高めとなった場合、どの圃場に問題があったのか推定できるので、具体的な改善策を立てやすくなります。なお、収量・食味・品質の振り返りには、前掲①〜

「スマートつや姫」の閲覧方法等に関するお問い合わせは、庄内総合支庁農業技術普及課、酒田農業技術普及課、または最寄りのJA営農指導担当へお願いします。

②穂肥診断マップ
従来の穂肥診断は、限られた圃場の限られた部分の葉色・葉数・茎数等を調査して、穂肥量や穂肥時期を判定していました。
6月下旬〜7月初旬に衛星から撮影した、圃場一筆

③刈取適期判定マップ
9月上旬の衛星画像から出穂後日数を推定して、刈

④食味収量点検マップ
当年産米の食味と収量の振り返りに活用できます。

⑤
たたとえば、今年の平均収量が低かった場合、あるいは玄米タンパク質含有率が高めとなった場合、どの圃場に問題があったのか推定できるので、具体的な改善策を立てやすくなります。なお、収量・食味・品質の振り返りには、前掲①〜

「スマートつや姫」の閲覧方法等に関するお問い合わせは、庄内総合支庁農業技術普及課、酒田農業技術普及課、または最寄りのJA営農指導担当へお願いします。

また、刈取開始と刈取限の月日が示されるので、よりシャープな適期刈取りが可能となります。
また、刈取開始と刈取限の月日が示されるので、よりシャープな適期刈取りが可能となります。

全体の葉色と生育量の画像データから穂肥時期である7月10日頃の窒素吸収量を予測し、指標どおりの穂肥ができるか否かを圃場ごとに色別で表示します。
今年の7月からは「つや姫」に加えて「雪若丸」は「えぬき」の穂肥診断も可能となりました。

たとえば、マップを参考にして刈取り時期の優先順位をつけることで、計画的・効率的な刈取作業が可能となります。あるいは、刈取適期の晩限が迫っている圃場から優先的に刈取りを始めることで、刈遅れを回避することができます。

生育期間中の衛生画像データから玄米タンパク質含有率と10a当たり収量を推定し、収量・玄米タンパク質含有率ともに良好な圃場、あるいは改善が必要な圃場を、色別で表示します。そしてそのような玄米タンパク質含有率・収量に至った生育期間中の要因を推測し、コメントで表示します(図5)。

③の機能も活用できます。たとえば生育期間中の生育が良好だったにもかかわらず屑米が多かった場合、あるいは玄米に胴割が多かった場合、穂肥診断マップ或いは適期刈取マップを改めて確認することで、実際の穂肥量や刈取時期が適切であったかを確認することができます。

図5. 食味収量点検マップとコメント

「スマートつや姫」は衛星

は客観的な判断材料を提供



図1. スマートつや姫の画面 (モバイル版)

品種: つや姫	予測実行
移植日: 2023/05/15	
6月13日現在の生育ステージ	
管理・生育ステージ	作業適期の予測結果
移植日	
莖数を確認し 中干し開始を判断 (8葉期頃)	
穂肥適期	
灌水(花水)に切り替え (出穂期3日前頃)	
出穂期	
斑点米カラムシ類防除 (穂前期)	
斑点米カラムシ類防除 (穂期後7~10日)	
落水(出穂後30日以降)	
刈取適期	
※高温等熟年のため適期の前倒し 刈取開始(出穂後積算気温℃) 刈取晩限(出穂後積算気温℃)	

図2. 作業適期予測

(1)「スマートつや姫」の強み
全国的に良食味米の産地間競争が熾烈です。庄内地域が高品質・良食味米産地の座を守り続けるためには、品質・食味の地域間差、生産者間差、圃場間差を可能な限り小さくしなければなりません。

当初は穂肥診断マップからスタートした「スマートつや姫」ですが、利用者から様々な要望や意見をいただき、機能を追加・充実してきました。中でも閲覧性・操作性の向上に対する要望が多かったため、令和五年からはモバイル版が運

するので、自分の観察や判断と合わせることで、より確で効率的な穂肥施用や適期刈取りが可能となります。

用され、スマートフォンやタブレットでも閲覧・操作しやすくなりました。

当初は穂肥診断マップからスタートした「スマートつや姫」ですが、利用者から様々な要望や意見をいただき、機能を追加・充実してきました。中でも閲覧性・操作性の向上に対する要望が多かったため、令和五年からはモバイル版が運

①作業適期予測
圃場一筆単位で生育予測と作業適期が表示されます。自分の圃場を選択し、品種と移植日を指定すると、その圃場の穂肥時期、出穂期、刈取適期などを明示します



山形県農林水産部
園芸大国推進課

明石秀也

さくらんぼ新品種 「やまがた紅王」

～本格デビューまでの 取組みとブランド化に向けて～

さくらんぼ「やまがた紅王」(注1)は山形県が20年をかけて育成した、県オリジナル品種です。庄内地域では令和4年までに、およそ60戸の登録生産者に累計850本以上が導入されています。主力品種の「佐藤錦」と「紅秀峰」に並ぶ期待の「大型新人」として、令和5年に本格デビューを迎えました。



注1.「やまがた紅王」結実状況

山形県のさくらんぼ生産量は日本で、果実の生産はもとより、流通・販売、食品産業、観光分野まで経済的な波及効果が大きく、さくらんぼは「山形県」のシンボルにもなっています。県内でさくらんぼの約7割のシェアを誇る「佐藤錦」は甘みが多く、程よい酸味があり、果皮色は鮮やかな赤色の最重要品種です。しかし、近年は開花期の天候不順による結実の不安

定化、成熟期の高温による着色不良と果実の軟化、ウルミ果の発生が課題となっています。さらに、生産者の減少と高齢化が進行する中で、7割を超える品種の偏りは、作業の競合や、販売期間の集中といった弊害の面が大きくなっています。そこで、県では早生種「紅さやか」や晩生種「紅秀峰」の導入を進めてきました。この課題解決と、県産さくらんぼのブランド力強化に向けて、県農業総合研究センター園芸農業研究所(寒河江市)では、新品種開発を進めてきました。

これらの課題解決と、県産さくらんぼのブランド力強化に向けて、県農業総合研究センター園芸農業研究所(寒河江市)では、新品種開発を進めてきました。

「やまがた紅王」(品種名)...

品種登録

「やまがた紅王」(品種名)...

山形C12号)は、平成9年「紅秀峰」の雌しべに育成系統「C47-70(レニーア)×「紅さやか」」の花粉を交雑して獲得した実生70個体から選抜されました。果実の大きさ、果皮のつや、果肉の硬さ、食味の良さから、平成29年に品種登録申請を行い、令和2年3月に「山形C12号」として登録されました。

名称公募と商標登録

国内では品種登録のほか、商標も取得しており、「やまがた紅王」の名称は平成30年に一般公募し、国内外から1万5千件を超える応募の中から決定し、令和2年8月に登録されました。また、ロゴマーク(注2)は令和4年3月に登録されました。さらに、将来的な海外



注2. ロゴマーク



注4.「やまがた紅王 プレミアム」

大玉、高品質安定生産の取組

登録生産者全員に栽培マニュアルやチラシ「やまがた紅王通信」を送付し、適期作業と品質基準の周知を徹底しています。今年本格デビューに向けた6月8日に各組織の指導者を対象に、出荷説明会と箱詰めの実演を行いました(注5)。本格デビューとなった今年産果実は、先行販売の昨年に比べて大玉の出荷比率が高く、初めて開催した大玉コンテストにも素晴らしい果実が出品されました(注6)。令和5年の収穫量は県全体で23トと推計してお



注5. 出荷説明会の様子

り、樹の生長と結果樹面積の拡大によって、来年度はさらに生産の増大が見込まれます。

今後の取組み

温暖化による気象変動や、高齢化の進行に対して、「やまがた紅王」の導入は、受粉環境の改善、収穫労力の分散、収穫期後半の品質低下の抑制、果実流通期間の拡大、長距離の流通や輸出への活用が期待されます。昨年までに「やまがた紅王」の栽培面積は県全体で150畝となり、「紅さやか」を抜き、「佐藤錦」、「紅秀峰」に次ぐ、県内第3位になりまし

「やまがた紅王」に関する最新の情報は専用ホームページ(<https://yamagata-beniou.nmai.org/>)をご覧ください。

への果実輸出や名称の不正使用を防止するため、名称(日本語表記・母国語表記)とロゴマークは中国・韓国・香港・台湾でも商標を取得しています(一部、審査中)。

オール山形によるブランド化

品種の振興、知名度と評価の向上を目的として、生産者代表、JA、青果市場協会、県からなる「やまがた紅王ブランド化プロジェクト会議」を組織して、生産対策と流通・販売対策に取り組みんでいます。

生産者登録制度の採用

「やまがた紅王」は県育成の果樹では初めてとなる、生産者登録制度を採用しました。これは、種苗(穂木)の厳格な管理と、初期の出荷数量の確保、果実の高品質生産を目的としたものです。栽培希望者は取りまとめ団体となっているJAや青果市場、苗木業者のいずれかに申請書を提出してい



注6. 大玉コンテスト入賞果実

た。10年後には、250畝への拡大を図り、県産さくらんぼ全体の品質向上、消費拡大、ブランド化推進に繋げていきたいと考えています。

令和6年秋配布用苗木の申請は令和6年1月から開始しますので、新規導入や苗木の追加をお考えの方は、最寄りのJAや、各農業技術普及課、園芸大国推進課までご連絡ください。

山形県産枝豆の販売状況等について

JA全農山形 消費地販売部 総合販売課 滝口 央 彬

山形県野菜研究会「豆科野菜類部会」から庄内地区生産農家皆様へ

この「山形県野菜研究会」という組織は、現在は14社（山形県内2社と関東地区12社）で構成されており、JA全農山形の野菜取扱高で約8割を占めています。今回は当研究会の「豆科野菜類部会」の部会長の東京千住青果株式会社 取締役 三田満男様から庄内地区の枝豆生産者の皆様へ激励コメントを頂戴していますので、ご紹介いたします。



東京千住青果株式会社 取締役 三田 満男 氏

東京千住青果株式会社の三田満男と申します。日頃より、四季折々の山形県産青果物をご出荷賜りますこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて、本年産枝豆に關しましてですが、過去にない猛暑・干ばつによって全国

はじめに

令和元年以降7、8月の東京都中央卸売市場における枝豆の入荷量は、約3000ト（3100ト）で推移していましたが、今年は全国的な猛暑の影響から入荷量が減少し、約2800トにとどまっています。

今年7、8月の主な産地は、山形県をはじめ秋田県、群馬県、新潟県が中心で、このうち本県産は、前年よりも約74ト少ない387ト、全体の14%を占めています。9月に入っても記録的な猛暑が続き、前年を下回る入荷状況となっています。

令和5年産枝豆の販売経過について

7月上旬は関東近在産地（埼玉県、群馬県）が前倒しで入荷され、新潟県産が7月中旬頃から本格的に始まりました。山形県を含む東北産地は、例年通り7月20日頃から入荷が開始されています。7月下旬にかけて関東近在産地の入荷と東北産地の潤沢な入荷があった

各地で収穫量が減少し、入荷量はここ数年を下回る結果になっています。長年販売させていたでいて、温暖化の影響から8月を過ぎましても猛暑日が続く、枝豆の需要時期は伸張し、販売には追い風が吹いていると感じています。庄内地区の枝豆については、「良食味」、「香り高い」商品として、消費者が好む「美味しい枝豆」と、自信をもって販売しておりますし、求めるお客様も多くいらっしゃいます。全国的に野菜の生産量は減少の一途を辿っていますが、枝豆に關しても、数年後の生産量は横ばいか微減と見込んでいます。諸般情勢は生産者皆様にとつて厳しい状況であるとは存じますが、市場といたしましては生産面積の拡大を要望できるよう、販売強化へ邁進してまいりますので、今後とも良品質の庄内産枝豆をご出荷いただきますようお願い申し上げます。

生産者皆様におかれましては、ご健康に十分留意され、作業にあたっていただきませうようお願い申し上げます。山形県野菜研究会「豆科野菜類部会」からのコメントに代えさせていただきます。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

結びに

消費地では猛暑の影響から、火を使った調理を敬遠する動きもありますので、電子レンジなどを活用した簡便な調理方法をこのようなSNSなどで紹介し、枝豆の消費拡大をはかっています。また、首都圏の量販店でも試食の振る舞いも行われ始めており、これからも庄内産枝豆のおいしさを広く知っていただくため、試食による販促活動を展開し、更なる庄内産青果物のファンづくりに努めてまいりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

図1. 主要産地別枝豆入荷数量（東京都中央卸売市場）7月～8月

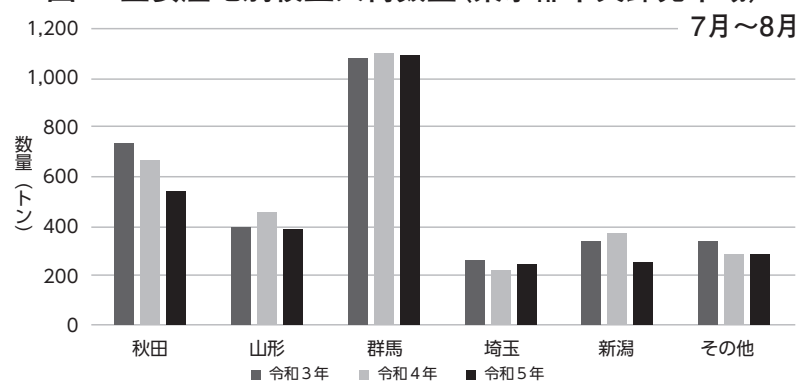
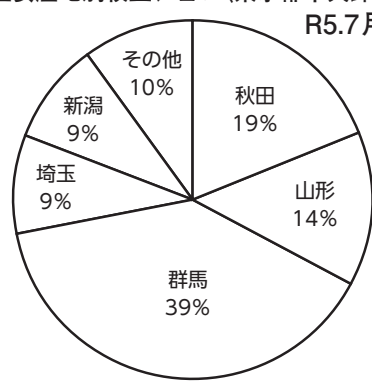


図2. 主要産地別枝豆シェア（東京都中央卸売市場）R5.7月～8月



ことから、売り場の更なる拡大に向けて、価格を下げながら売り込みが行われました。8月の盆前は関東近在産地が減少し、秋田県は前月に発生した大雨の影響で入荷量は減少に転じました。盆前で需要が高まったことや前月末に売り場を拡げていたことから不足感のある販売になり、価格は上向きになりました。盆明けは猛暑の影響で土壌が酷く乾燥したこと、新潟県や秋田県、山形県など日本海側の産地を中心に収穫遅れや品質の低下が発生し、入荷量が減少しました。消費地では残暑が続いたため、枝豆の消費は一定を維持し、引合いのある販売となったことから、価格は一段高くなりました。9月は入荷が少なく、価格が高い状況が続いたため、気温の低下（消費の低下）とともに売り場が縮小される懸念がありました。しかし、気温が高いまま推移し、各産地からの入荷量も増えることなく経過したこと、概ね堅調な価格で販売され、

お彼岸を過ぎたあたりから、消費地の気温も下がり始め、店舗の売り場は夏から秋に切り替わり始めました。10月に入ると、売り場が秋商材に切り替わりますので、枝豆の棚は縮小しましたが、各産地の入荷も終盤まで少なく、価格は最終盤まで大きな値崩れなく販売されました。

新たな取り組み

近年、枝豆については、各産地との競合により特に豊作基調の年においては、厳しい販売状況になっています。その中で本県でも、食味計を導入して、甘味成分のスクロースと旨味成分のアミノ酸を測定し、その数値の優れた圃場での栽培方法を参考に、地区全体で食味向上をはかりブランド価値を高める取り組みが始まりました。

今年、試験的に京浜地区の市場において、この枝豆の求評会を行い、市場関係者からは「香り」「食味」「風味」は、いずれも好評でありました。

JA 全農山形の消費宣伝活動紹介《宣伝資材》



POP (B5サイズ)



ポスター



スイング POP



ミニのぼり

《広報活動》

JA 全農山形では SNS を用いて県内の旬な魅力情報を県内外に発信しています。また、プレゼントキャンペーン等の実施により山形県産ファンの更なる拡大を目指しています。

園芸 大國 山形 イメージキャラクター

らふらん

『らふらん』は山形県のシンボル動物「カモシカ」と「ラ・フランス」の妖精です。



InstagramやYouTubeで山形県の農産物の魅力をご紹介します!



Instagram



YouTube